



横浜市立桂小学校

桂小だより

KATSURA NEWS LETTER

7月号

令和5年6月30日

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/katsura/>

学校についての詳細や学校生活についてはHPをご覧ください。

E-mail: y3katura@edu.city.yokohama.jp 桂小学校HPのQRコードはこちら→



水泳学習が始まりました！

副校長 川本 佳織

太陽の眩しい光が、透明なプールの底まで降り注ぎ、風で波立つ水面にも、白くきらきらと反射しています。梅雨の晴れ間の鮮やかな青空の下、プールサイドに立ち、久しぶりに本格的な水泳学習ができることをうれしく思いました。

「今日はプールあるかな。」「地獄のシャワーは冷たいかな。」と、朝からわくわくうきうきしている子どもたち。中には不安そうな顔をして、水泳セットをぎゅっと抱きしめている子もいます。一人ひとり、様々な思いを抱いて水泳学習に臨みます。

6月13日(火)の朝会で、プール開きが行われました。運動委員長が、安全に気を付けて学習することを約束し、校長先生から大きな「安全の鍵」を受け取りました。代表児童が自分のめあてを発表しました。1年生代表が、「顔を水につけることができるようになりたい。」と話していました。それを聞いて、私も1年生のとき、水が苦手だったことを思い出しました。



今はもう使わないのですが、腰洗い槽や目を洗う蛇口を覚えています。初めて水に全身が浮かんできたときの驚きや、泳げる距離が徐々に長くなっていく喜びも覚えています。小学校6年間で、自分の成長を実感できたことの一つです。ただ、それは毎日のように水泳学習ができた頃の話です。現行の学習指導要領では、水泳学習ができるのは数時間ほど。その短い時間の中で、「水に慣れること」「潜ったり、浮いたりすること」「泳げるようになること」といったスキルの習得と、「水の事故を防ぐことができる」という目当ての達成を目指します。短時間だからこそ、子どもたち一人ひとりが自分の目当てをしっかりともち、ルールを守って水泳学習に参加することが大切です。

北海道函館市の全ての市立小学校では、今年度の水泳学習が中止されることになったというニュースがありました。函館市のほとんどの市立小学校にはプールがないため、コロナ禍前は、バスでプールのある小学校へ行き、水泳学習をしていたところ、コロナ禍でバスの運転手さんがいなくなってしまった……。また、外国では、水泳学習ができる学校は珍しいそうです。日本は水難事故が多いため、全国の小中学校でプールを設置し、水泳学習を重視して行っていました。しかし、今は学習時間が減少し、全国的に外部に委託しようとする傾向もあります。少子化、維持管理にかかる費用と労力など、様々な課題を抱えている水泳学習。今後どのように変わっていくのでしょうか。

目の前の子どもたちを見ると、蒸し暑い日に教室を出て、みんなと一緒に水に入り、目当て達成を目指す水泳学習は、子どもたちにとって今しかできない大事な体験の時間だな、と思います。皆さんは、どう思われますか。